



あなたの 相棒

人間誰しも、大切な人・物・場所があるはず…。府立生野高校写真部と一緒に、そんな誰かのかけがえのない「相棒」を紹介します。第12回目は、岡で器械体操を中心に指導する「シロマスポーツクラブ」理事長の城間晃さんです。

オリンピック選手を育てた先生

「はいっ！」コーチの指示に返事をする子ども達の大きな声が私たちを出迎えてくれた。シロマスポーツクラブの生徒は、幼児から中学生まで約270人、うち39人が試合に出る選手だ。

理事長を務める城間晃さんに、この仕事を始めたきっかけを尋ねてみると、「体育大学を出て、最初、学校の先生になろうと思ってたんやけど、体操ばっかりやって勉強せえへんかったから受からなかった。浪人中、体操クラブへアルバイトに

行ったら、小学校低学年の子が軽々とバク転してるんや。それを見て感動して…、こんな子らを育てたいと思ってから、ずーっとこの道（体操で若い子を育てる仕事）。」40年以上の指導の中で、才能のある選手にも出会い、メダリストを育てることもできたという。晃さんの父が晩年「うちの息子はオリンピック選手を育てた先生や」と周りの人に誇らしげに話す姿を見て、「この仕事を通じてちょっとは親孝行出来た気がした」と語ってくれた。

「相棒」を聞いてみると「やっぱり社員。ホンマに子どものことをよく見てくれて、危ないと思った瞬間にはもう、身体が子どもの補助に動いてる。そんなスタッフがいてこそ、この仕事ができる。」逆にスタッフの方にも晃さんのことを尋ねたら、「いや、スゴイ人ですよ。今、その子がどんな状態で、何を必要としているか、何をさせたらアカンのか、見抜く観察力がモノスゴイ。」と教えてくれた。お互いを尊敬しあい、協力しているその関係に、なんとも言えない温もりを感じた取材だった。

文 廣井 和佳奈（一年）

